

千代水地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年10月18日（木）19：00～20：00
- 2 場所 千代水地区公民館
- 3 出席者 地区出席者 10名
市出席者 3名（深澤市長、乾危機管理局長、安本地域振興局長）



4 テーマ 防災力向上について

5 概要

（地元あいさつ）

当初は、本日の議題として校区問題を取り上げる予定だったが、第14期校区審議会が始まったばかりで結果がわからないため、急きょ防災力向上を議題として取り上げた。校区問題は先の話になるかと思うが、その時になったら相談させていただきたい。

千代水地区は、千代川、安長方面では野坂川があり、万が一の場合、どこに逃げて良いかわからず困っている。地震に対する備えは、去年訓練を行ったため、完全ではないにしろ、いづらかわかってきたところである。一方、水害についてはどこに避難して良いのかわからないという町内会が多くあった。今日は、千代水地区で災害が起きた場合、どこに避難したら良いかについて意見交換していきたいと思う。

（市長あいさつ）

先ほど、地域から今日のテーマについてお話しをいただいた。校区問題もあるということだが、これについては別の機会に地域の考えを聞かせていただけたらと思う。

今年は、7月豪雨で甚大な被害が発生し、台風も多く、鳥取市でもあちこちで被害が発生した。改めて、地域の防災力を高めていかなければいけないと考えている。地震、風水害等様々な災害があるが、それぞれの災害にどのように備え、対応していくのか、日ごろから地

域と一緒に考えていくことが大切だと思う。

今年から、テーマを絞ってざくばらんに意見交換をさせていただこうと地域づくり懇談会の進め方を変更している。忌憚のないご意見をいただければありがたい。

千代水地区の取組みの説明

<テーマの背景>

当地区には水害の際の避難場所がない。浸水が想定される地域（商栄町、安長、安長団地、安長扇町）は近くに避難できる建物がなく、特に心配する声が多くあがっている。近隣の民間企業に、建物の高層階を緊急時の避難場所として協力していただくよう、地域でお願いしているが、なかなかいい返事がもらえない現状がある。近年は、今年7月の豪雨、9月30日の台風など多くの災害が発生しており、地区住民の不安が高まっている。

<地域の取組み>

毎年、自主防災会主催で南隈公園にて消火栓を使った消火訓練や土のうづくり、土のう積み訓練を年1～2回行っている。昨年は地区から約70名の参加があった。

また、昨年9月には青年会議所と共催で地区公民館と地区体育館で1泊2日の避難所体験を実施した。段ボールを使って避難場所の設営や、東日本大震災被災者による講演、炊き出し訓練などを行い、地区内外から500名を超える参加があった。（平成29年度トトリズム活動表彰最優秀賞を受賞。）

今後は、避難ルートや要支援者を記入した防災マップを地区で作成したいと考えている。

（地元）

イオン鳥取北店や小・中学校は、地域によっては距離があり避難することは難しい。その場合どこに避難すればいいのか、市の考えをお聞きしたい。

（市長）

今年7月には全市で特別警報が発令され、直ちに身を守る行動を取ってもらうように、避難指示を出させていただいた。こういった状況では、安全な場所への避難行動がとれないこともある。その場合は、2階など少しでも高いところに避難していただくことや、土砂災害が懸念される場合は山の斜面の反対側のほうに移っていただくなど、緊急避難的な行動をとっていただくことが必要だと思う。

大雨等の場合は、地震とは異なりあらかじめ早い段階である程度の災害を予想することができる。鳥取市は、台風、大雨等について気象台等の情報を常時把握しており、早めに自主避難所に避難していただくよう呼びかけている。雨が降り出し、河川水位が上がり危険な状況になる場合は、早めに避難勧告や避難指示を出し、付近の公共施設等に避難していただくようお願いしている。様々な場面が考えられるが、水害の場合はあらかじめある程度予測ができること、一定時間経過すれば水位が下がっていくという特性がある。重要なことは、早

めに身を守る行動を、避難行動をとっていただくということである。鳥取市からもそのために情報をお伝えしていきたい。

あらかじめ避難所を設定しているが、河川水位が上がった場合、どうしてもその避難所に行かなければいけないということではない。一時的に、地域の集会所や、自宅の2階以上に避難していただくことも必要だと思う。

また、1000年に1回程しか起こらないような大規模な水害が発生した場合にどのあたりまで水が浸かるかを示した洪水浸水想定区域図が公表されている。こうしたものを活用いただき、浸水想定箇所を把握いただいた上で、普段から避難経路について話し合い、防災マップ等に反映していただければと思う。地域で防災マップを作成される際は、危機管理課の防災コーディネーターと一緒に考えていただければと思うので、ご一報いただきたい。

(地元)

7月豪雨の際、どこに逃げたら良いかわからなかったため、自宅の2階に緊急的に避難してもらおうよう地区放送を行った。また、敬老会の場でどこに避難したら良いか説明した際、自主避難所として開設される湖山西地区公民館やコカ・コーラボトラーズジャパンスポーツパーク体育館は、冷暖房があるため、避難環境が良いことを話した。しかし、地元住民には地区外である湖山西地区公民館に避難することに戸惑いがある方もおられる。自主避難所なのでこの地域の方でも避難できると説明したが、改めて市からこの点について回答いただきたい。

また、イオン鳥取北店に避難する際、昼間はお客として立体駐車場に上がれば良いと思うが、夜間は不便になるのではないかとと思う。それならば、車で賀露や湖山に逃げたほうが一時しのぎしやすいのではと考えるが、市はどうお考えか。

(危機管理局長)

1点目は、地元の地域以外の避難所に避難することへ不安があるというご意見をいただいた。自主避難所は、様々な地域の方に自発的に早めに避難していただくところであるので、不安なく避難していただければと思う。

鳥取市総合防災マップで、千代水地区の浸水域の見方を紹介させていただく。14ページに出ているのが千代川水系の想定最大規模降雨（48時間で508mm）で、千代水地区は0.5mから3m未満の浸水域となっている。22ページには、100年に1回（48時間で325mm）という規模の降雨時の浸水規模が示されており、千代水地区は50cmから2m未満の浸水域となっている。また、防災マップには載っていないが、1000年に1回（48時間で508mm）という規模の降雨時には、千代水地区公民館は2.62m浸水、100年に1回（48時間で325mm）という規模の降雨時には1.22m浸水するというデータがある。深夜に浸水が始まっている、あるいは雨足が強い場合は、必ずしも避難所に行くよりは、自宅の2階以上に避難することが命を守るために安全だと言える。

もう1点、イオン鳥取北店に夜間避難できるのかというお話しをいただいた。鳥取市はイ

オン鳥取北店と協定を結んでおり、営業時間中は、避難者も一般のお客様と同様に取り扱うことになっている。夜間は、鍵やセキュリティーの問題があるため、そうした準備が整ってから避難者の受け入れをすることになっているのでご承知いただきたい。ただし、やむを得ない場合には、イオン鳥取北店の立体駐車場に上がることは可能かと思う。命を守る行動として頭に入れておいてもらえればと思う。

(地元)

7月豪雨の際、避難指示が出たにも関わらず避難された方は少なかったのではと思うが、そうした避難意識、実際に避難された方の調査はしておられるのか。また、鳥取市でも住民の避難意識を高めようとしているとは思いますが、実際に災害が発生しない限りは、そうした災害が起きるはずがないという意識の方がほとんどだと思う。住民の避難意識を高めるために、こういったことをされているのかお聞きしたい。

(市長)

何名の方がどこの避難所に避難されたかは、データとして時系列で全部把握している。また、住民の避難意識の問題について、鳥取市は避難指示を出し、直ちに身を守る行動をとっていただくよう呼びかけたが、実際に避難行動をとっていただけなかったということがあった。これは鳥取市だけではなく全国の自治体で課題となっている。空振りに終わっても避難行動をとっていただけるようにこれからも様々な機会と呼びかけをさせていただき、防災の正しい知識を多くの皆さんに身につけていただけるように努めていかなければならないと思っている。

(地元)

先ほどの危機管理局長の話は、大雨が降った際に河川が氾濫した場合の浸水域の話ではないか。千代橋、八千代橋、鳥取大橋の区間について、堤防が決壊した場合のお考えを伺いたい。また、防災マップの浸水域は野坂川の氾濫を考慮していないのではないかと思う。千代川は直線で幅も広いが、潮位の関係で海からの逆流という話も聞く。そのあたりをどう考えておられるか。

もう一点、7月豪雨の時や9月の台風の時に、防災行政無線が非常に聞こえづらかった。私の町内会は高齢者が多く、若い人のようにインターネットで情報を調べる事が難しい。また、テレビで文字放送が流れるが、市が流された情報と多少違うのではないかと思う。やはり、防災行政無線が聞こえやすくなる必要があると思う。風向きによっては聞こえづらいこともあるかもしれないが、スピーカーの増設ができないか考えをお聞きしたい。

(市長)

河川水位が上昇することとは別に、堤防が決壊することによっても浸水は起きる。7月豪雨の際は、全国的にそういう状況も発生した。幸いにも千代川水系ではそういったことはなかったが、これは先人たちが千代川の河川改修を行ってきたおかげであろうと思う。堤防の

嵩上げ、河川の浚渫等の治水事業についての予算をつけてもらうよう以前から取り組んできている。近年、災害が多く発生している状況を受けて、直接の所管である国土交通省に要請活動を行ったり、国会議員に応援していただけるよう活動を行っているところである。決壊は絶対はないとは言い切れないが、千代川水系はかなり治水に力を入れてきた。千代川はおよそ52kmの延長で、川としては短く、急峻な特性があり、上流で大雨が降ると、数時間後には一気に河口に流れてくる。こうした特性があるので、早めに避難行動をとっていただくのがこの千代川水系でも必要になると思っている。

また、海の潮位について話をいただいた。潮位の変化、併せて台風の接近による気圧の低下もあってさらに海面が上がってくる、いわゆる高潮という現象が生じる。そうになると、河川から海への流れが悪くなり、場合によっては逆流する。決壊が起らないように、上流から下流へしっかり水が流れていくように、取り組みをしていく必要がある。

それから、防災行政無線が聞き取りにくかったというお話をいただいた。特に風が強い場合は、窓を閉め切っていると聞き取りづらい状況があると思う。その場合は、「0857-21-6100」にかけていただくと、防災行政無線で流れた内容を確認していただけるようになっている。

鳥取市は現在、コミュニティFMのエリアを拡大していこうと取り組んでいる。これは、FM放送で防災情報、災害情報等を流すというものである。災害はいつ、どこで起きるかわからないため、防災行政無線、コミュニティFM、テレビでの文字放送等、様々な情報伝達手段を確保していく必要があると考えている。こうした技術は日進月歩であるので、これからも新しいものを取り入れていきたい。まずは新庁舎に、コミュニティFMのサテライトスタジオを設置し、災害発生時に全市に放送できるように取組みを進めている。防災行政無線は緊急の場合は自動的に最大音量で流れるようになっているが、それを補完するよう、防災行政無線と併せて、様々な情報伝達手段をしっかりと確保していきたい。

テレビでの文字情報は、鳥取市が避難指示、避難勧告を発令してから間をおかずに流れるようになっており、防災行政無線等で流れた情報と同じ情報と考えていただければと思う。河川水位もインターネット等で確認いただけるようになっている。様々な情報を活用し、避難行動に役立てていただきたい。

（危機管理局長）

国土交通省の浸水想定は、千代川が200mおきに破堤したという仮定で計算されたものである。また、野坂川は県管理河川であり今年6月に浸水想定が発表されたが、野坂川の氾濫があった場合も現状の浸水域とほとんど変わらないので、防災マップ22ページに示したような浸水域になると考えていただければ良いと思う。

（地元）

大井手川の清掃をしっかりとってもらうよう平成26年度から要望を出しているが、全く進んでいないようである。集中豪雨で千代川が溢れそうになると野坂川から大井手川に向けて水が逆流してくるので水門を閉める。排水ポンプは3台あるが、7月豪雨の際には間に合

わず、堤防決壊寸前までいった。以前から言っているが、ポンプ3台では排水が間に合わないので増設をお願いしたい。また、大井手川に葦が生えており、水が満足に流れていないので清掃をしていただきたい。要望しても一向に進展がない。鳥取県の管轄だと思うが、鳥取市からきちんと伝えていただきたい。

(市長)

市としては、しっかり要望してきている。今年は、全国各地で大雨の被害が発生したことを受け、中核市市長会にて、災害対応に取り組めるよう予算をつけてもらうべきとの意見が出て、国に要望するようになったところである。また、中国治水関係の会議等、様々な機会をとらえ、予算をつけていただくよう要望していかねばならないと思っている。

ポンプ増設もその一環として要望していかないとはいけませんが、内水排除ということになると鳥取市の担当部分にもなる。出来る限りポンプの設置等進めていきたいが、鳥取市には内水排除が必要な箇所がたくさんあり、全てには行き届いてない状況である。必要なことであるので、しっかり要望して取り組んでいけるようにしていきたい。

(地元)

千代水地区には、4町内、集落に町内会がない場所がある。町内会がなくても、民生委員はそこを無視できず、防災関係の相談、報告も受けたり、避難行動要支援者名簿も持っているが、どういう対処をしていけば良いか意見を聞きたい。

(市長)

非常に大きな課題であると認識している。町内会の加入率は、鳥取市でも年々下がってきており、65.9%となっている。地域コミュニティを維持していく上で危機的な状況にあるということで、鳥取市自治連合会と一緒に加入率を高めていく取り組みをしている。その1つとして、宅地建物取引業協会等と連携し、マンションやアパート等に入居される際に町内会に入ってもらえるようお願いをする等、地域コミュニティを維持するために町内会組織に加入していただけるよう取り組んでいる。なかなか結実しないが、防災面でも非常に重要なところであり、人口減少、少子高齢化が進んでいき、地域でのつながりが希薄化することで様々な問題が発生するので、危機感を持って引き続き取り組んでいきたい。

(地域振興局長)

市の担当課も一緒になって考えていかないといけない部分だと思う。地区で開催されるイベント時等の機会をとらえ、地域からも町内会ができないか声かけをしていただけたらありがたい。必要があれば、市の担当者も一緒に町内会について説明させていただければと思う。

(地元)

町内会に加入してもらおうようお願いするというレベルでは、ますます危機的状況が進むと

思う。市長が危機的状況と認識されているならば、日本で鳥取市が模範となるような条例を整備する努力をされてはどうか。

（市長）

自治会加入については、何か決め手になるようなものが見出しにくいというのが率直なところであり、危機的状況にあるとは思っているものの、何か功を奏するような取り組みが見つからない状況である。条例を制定してある程度強制力を持たせたらどうかという意見は、ご提案として受け止めさせてもらいたいが、町内会加入をめぐるっては全国でも裁判になったような事例もあり、強制力を持って対処することは難しいと思う。回り道になるが、一つひとつ地道にやっていくしかないと思っており、様々な機会に、町内会の必要性、重要性について話していくことが肝要だと思う。

（地元）

鳥取市から各町内会に小型除雪機を貸与されている。貸与1年目はメーカーの保険がついているが、2年目からは貸与された町内会で保険料を負担しないといけない状態になっている。農業共済組合に確認すると、年間8,000円弱の保険料がかかると伺った。鳥取市で一括で契約をする、保険料について支援していただく等、検討していただけないか。

（市長）

小型除雪機は、年次的に台数を増やして活用いただいている。年数が経過し、修理が必要な除雪機については、鳥取市が支援させていただくような制度にしていくことも考えられる。保険料についても、鳥取市で一括して加入するというのも一つのご提案として受けとめさせていただきたい。これから普及が進んでいくと、今度はそれをいかに維持していくかという状況になってくると思うので、また検討させていただきたい。

（道路課補足）

小型除雪機の貸付は、除雪機本体の購入を市が行い、運転など活動に係る経費と日常点検、及び労力を皆様をお願いする役割分担として、活動していただく制度です。

小型除雪機の貸付条件にある賠償保険に鳥取市で一括して加入すると、市道以外の除雪作業が対象外となるなど制限がかかるほか、地域ですでに総合的な保険や複数年契約又は日契約のものに加入している場合など、除雪に関する経費が算定困難なものもあるため、現状では今までどおり各町内会での負担をお願いします。

なお、昨年度から3年ごとの点検・修理を市が行うことで、市の支援拡充を図っているところです。

（司会）

今日参加された方は、地元に戻った後、地区の皆さんとコミュニケーションを図っていただきながら、防災力を向上していただきたいと思います。

(市長あいさつ)

熱心に防災力の向上等について意見交換をさせていただいたことに感謝申し上げます。

全国各地で様々な災害が発生しており、近年そうした状況が多くなってきている。災害はいつ、いかなる時に発生するかわからない。その被害を最小限に食い止めるためには日ごろからしっかり備えをすることが肝要である。これからも、皆さんと一緒に、鳥取市の地域防災力を更に向上させていく取り組みを進めていきたい。

鳥取市は平成16年11月に合併後、非常に広大な市域を有するまちになった。それぞれの地域の状況も様々であり、その地域に合った様々な防災の取り組みもあろうかと思う。皆さんと一緒に、防災マップの作成や避難経路の確認を一緒にさせていただければと思う。危機管理課にご一報いただければ防災コーディネーターも一緒に取り組ませていただきたい。